

第4節 自己評価を踏まえた対策集例

1. 対策集例を提示する目的

対策集例は、地域全体の放火火災対応力を向上させるために講ずべき対策を、評価者が具体的に把握し、実行することを目的としている。

評価者は評価シートにより放火火災に対する危険度を認識し、対策集例等を参考として、放火火災に対する危険度を低減するための具体的な対策を講ずることとなる。

レーダーチャートにおいて取組みの評価の低かった〔中項目〕についてプログラムソフトにより対策集例が表示され、評価者にとって効果的かつ具体的な対策が把握できる仕組みとなる。

(なお、プログラムソフトの作成自体は、平成17年度を予定している。)

対策集例は、あり方検討報告書をもとに平成11年に作成された「放火火災予防対策マニュアル」や、中間報告書にとりまとめられた「放火火災・連続放火火災対策集」、全国の消防本部の具体的な取組み例等に基づき、各評価シートの評価者にとって必要と考えられる対策を抽出し、中項目ごとにとりまとめた。

2. レーダーチャートと対策集例との関係

レーダーチャートが提示された後、対策集例を参照したい中項目をプログラムソフト上で選択すると、選択した中項目に係る対策集例が具体的に提示される。評価者は、自己評価の低い項目について講ずべき対策を把握できる。

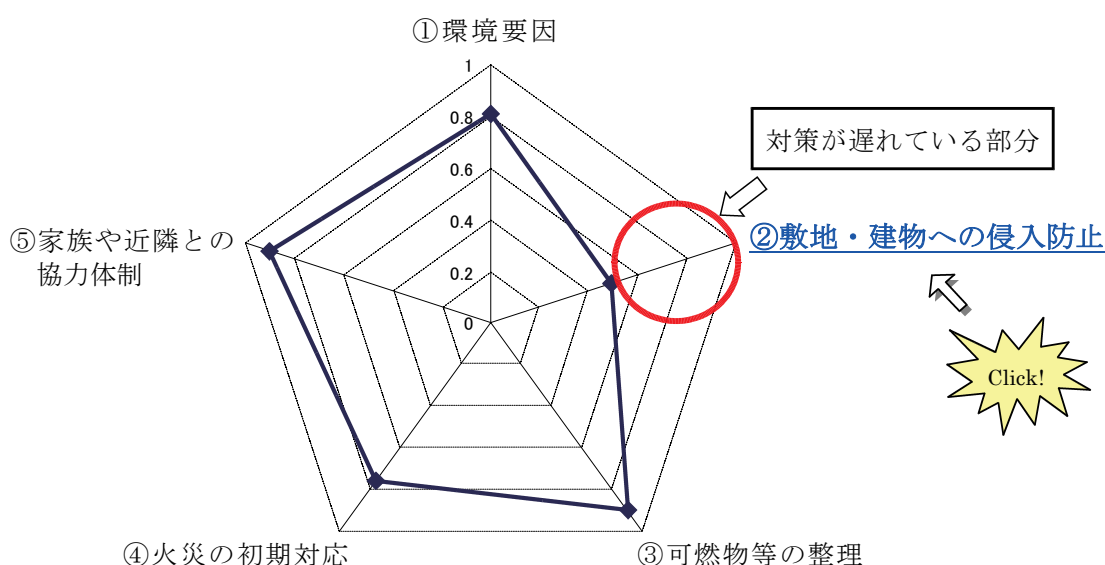


図2-25 レーダーチャートから対策集例への対応例

3. 対策集例

本検討会で検討したプランの初版の「対策集例」の具体的内容については、第2編に示すとおりである。

なお、例示された対策については、効果や取組みやすさ等を実際に個人や地域が行った結果を評価・分析し、今後その内容を見直していくことが必要である。